

1. 走行形態から携行形態への変形手順



アントを走行形態から携行形態へと変形させるには、安全装置の解除と少しのコツがいりますが、操作に慣れていただくと、10秒程度で作業を完了することが出来ます。作業はアントの左側に立って行います。アントをキックスタンドで立てた状態で操作してください。

①リアコグ上のチェン位置は変形操作に影響を及ぼしませんが、携行時の干渉を避けるため、あらかじめチェンをシフトインジケータ表示の3速から7速間のいずれかにシフトしておいてください。



※この間にサドルの先端を収める。



②クイックシートピンを操作して、必要ならば携行形態用にサドル高さの調整を行います。サドルの高さを必ず携行形態時に右図の位置のように、ハンドルとフレームの間に収まる高さに調整してください。



③ハンドル部を折りたたみます。折りたたんだハンドル部を180°左回りに反転させます。



④キックスタンドを収納します。

⑤右手でサドルの後部をつかみながらリアキャリアにひざを乗せる、もしくは右手でリアキャリアをつかんでサドルとリアキャリアの間を広げます。



⑥フレームのロックを解除します。サドルを右手で支えながら左手をフロントロックアームとシートチューブ・トップチューブが構成する三角の隙間に入れてシートカラーの両側にあるノッチを人差し指と親指で内側に押し込みます。



※ノッチが硬くて押し込めないときは⑤の作業が十分でない場合がありますので⑤の作業を繰り返します。慣れると⑤と⑥の作業は同時に行えます。

⑦ノッチを押し込んだまま右手でサドル上部を地面に対して押さえつけると、シートカラーが上側にスライドしてフレームの圧縮が始まります。サドルを完全に押し込む前に左手を速やかにフレームの隙間から抜いて、ハンドル上部を持ちます。



⑧フレームの圧縮を始める前に各フレームチューブの隙間から手を完全に抜いてください。近くに小さなお子様がいる場合は、お子様が作業中にフレームの隙間に手を入れないよう注意を払ってください。手を挟んで重傷を負う場合があります。

⑨キャストホイールが接地するまでサドルを押し込みます。

⑩キャストホイールが接地して前輪が地面から離れます。シートカラーの右側にあるロックプレートがトップチューブのロックピンを捕らえるまでハンドル部とサドル部を後輪側に倒しこみます。その際に反転させた前輪がダウンチューブ下部に設けられた前輪ロックプレートの中央に収まるように確認してください。



⑩クランクを水平にしてペダルを折りたたみます。

以上で携行形態への変形作業は終了です。

⚠アントは携行形態になるとキャストホイールと後輪が地面に接地して旅行用スーツケースのように歩きながら転がして運ぶことが出来ます。

※公共交通機関へのアントの持ち込みにはオプションのプロテクトカバーの装着が必要です。

※もし地面が水平であるのにアントが安定して自立しない場合はキャストホイールの取り付けに問題がある可能性がありますので、キャストホイールの状態を確認してください。



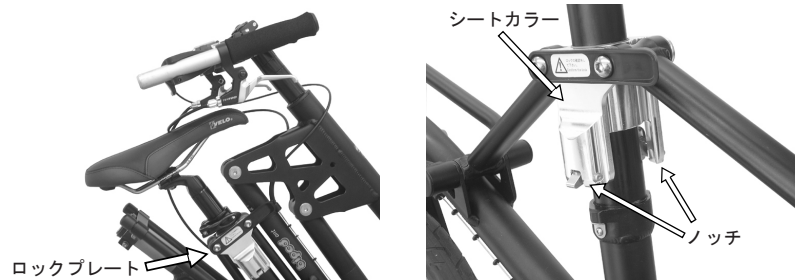
2. 携行形態から走行形態への変形手順



アントを携行形態から走行形態へと変形させるのはきわめて簡単です。

作業は携行形態への変形手順と同じくアントの左側に立ってから行います。

①圧縮されている車体の上から覗き込むようにして車体のシートカラー部の右側に取付けられているロックプレートを確認します。



②右手親指でロックプレートの先端をわずかに起こしながら左手でハンドル部を前方に押し広げてロックプレートをトップチューブのロックピンから外します。

③左手でハンドル部を、右手でリアキャリア部を持ってフレームを左右に広げます。

※右手でサドルを持って広げようとしてもフレームは途中までしか広がりません。

④ある程度フレームが開いたら、右ひざをリアキャリアに乗せて抑えながらサドルを上側に「カチッ」と音がするまで引き上げてください。その後、左右のノッチがハの字に開いて、サドルを上から抑えてもシートカラーがスライドしなければロック完了です。

※右手でリアキャリアを掴んだままフレームを最後まで左右に開くとサドルがせり上がってきて顔面に当たる恐れがありますのでお止めください。

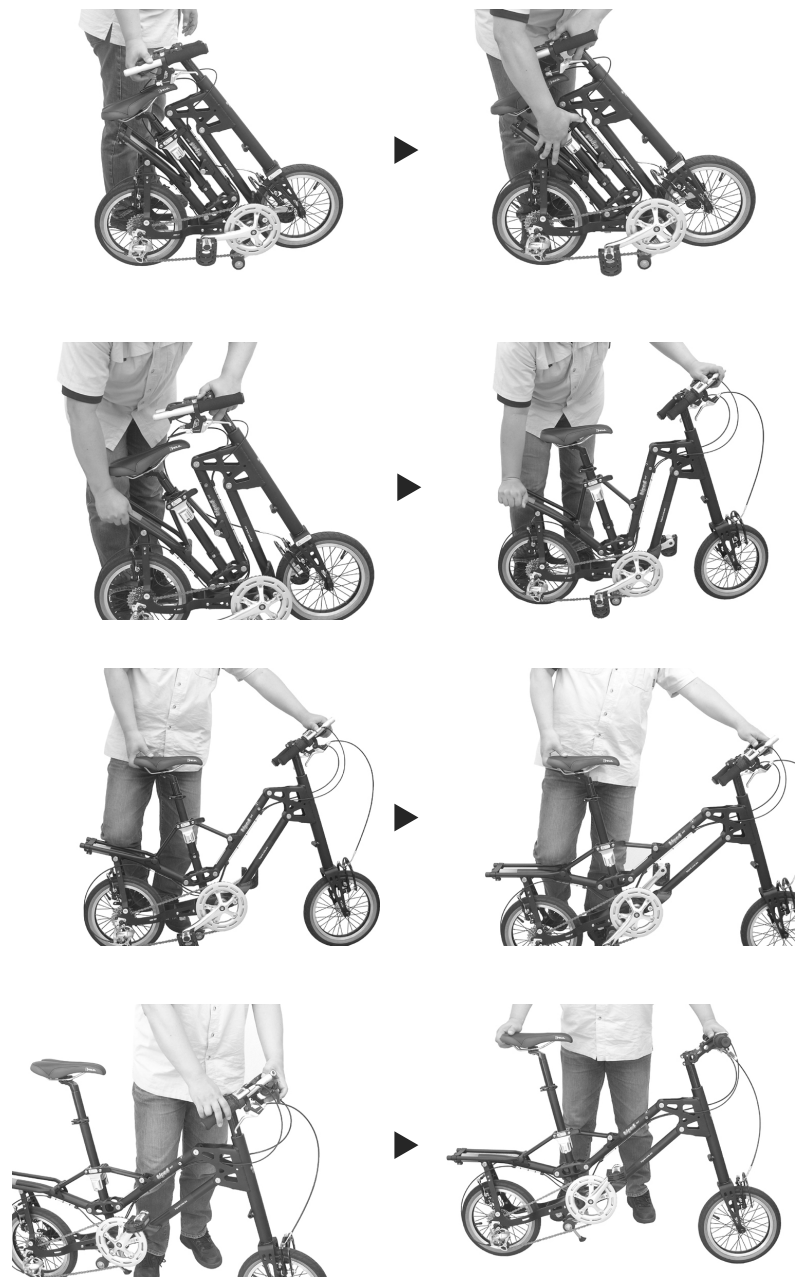
⑤ハンドル部を180° 右回りに反転させて真直ぐにします。この作業はフレームの開放と同時に行うことができます。

⑥キックスタンドでアントを立てます。

⑦ハンドルバーを組み立てます。

⑧ペダルを組み立てます。

⑨クイックシートピンを使用して必要ならばサドル高さの調整を行います。



⊙公共の場所や通路でフレームの開放を始める場合には、通行中の方などに迷惑を掛けないように、周りに注意を払いながら作業を行うように心がけてください。